

編集後記

◇ どの農業団体も3月から5月にかけては、役員会、総会がたけなわの季節である。

いも類振興会では、3月26日の評議員会・理事会において平成21年度の事業計画、収支予算計画の承認をえ、平成21年度の事業を進めている。更に、5月27日の評議員会・理事会では、平成20年度の事業報告と財務諸表の承認をいただき、今、一息入れている状況だ。

◇ いも類振興会は、平成22年10月で創立60周年を迎える。一方、本会の機関誌「いも類振興情報」は、本号で第100号となった。本号はこれらを記念して特集号を組んだ。

14名の方から快く寄稿をいただき、特集に相応しい紙面となった。心よりお礼申し上げたい。なお、本会の堀尾英弘が整理した発行順・執筆者順の「いも類振興情報」総目次（1～100号）を、巻末に掲載した。今後、参考資料として活用いただければ幸いである。

◇ いも類振興会60年の歴史については、私もその概略を承知していた。本会の歴史については本文でも触れたように、（財）諸類会館が設立された昭和25年までの記録は、西田悦夫稿「諸類加工三ヶ年 日本諸類工業會史」と「諸類会館建設記」に記されている。しかし、それ以降については纏まった記録はなかった。

従って今回、「いも類振興会60年の歩み」のまとめに際しては、各年度の事業計画書、事業報告書、財務諸表、役員会の議事録、本会所蔵の関係文書等の原資料に当たるしか手だてはなかった。日常業務の隙間時間を利用しながら4月から5月までの2ヵ月間、古い文書と対話し先人の皆さんのご苦勞に感謝しつつ、とりまとめを急いだ。この作業では新事実の発見などもあり、私にとっては楽しい時間であった。

◇ 「いも類振興情報」の1号から100号までを速読してみた。いも類情報の宝庫であることを再認識させられた。これまで本誌に寄稿された方は215名を数え、多くの方々のご支援・協力を得て発刊されてきたことがわかる。

なかでも特筆すべきは、本誌の29号から94号まで通算66号分の編集に携わられた秋元喜弘さんの功績である。その間のご苦勞や様々な想いは、本文の「いも類振興情報100号までの軌跡」で述べられている。本誌は、いも類振興会やいも類関係者にとって“宝もの”であり、秋元さんに改めて感謝申し上げ深く敬意を表したい。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第100号

平成21年7月15日発行

発行 財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社